

春秋会

ニュースレター

2020.7 臨時増刊号



2020.7.27

春秋会

ニュースレター臨時増刊号

大阪弁護士会副会長

推薦候補者

村瀬謙一さんの意見を

聞く会のご報告

発行：春秋会 広報委員会

2021年度大阪弁護士会副会長推薦候補者
村瀬謙一さんの意見を聞く会 ご報告

浦 寛幸（59期）

1. 令和2年7月21日12時30分より、2021年度大阪弁護士会副会長推薦候補者（以下「候補者」といいます。）の意見を聴く会が開催されました。会場には多くの方が出席され、Zoomでも多くの方が参加されました。意見を聞く会とは、春秋会が次年度の大阪弁護士会の副会長を推薦する会員を選考委員会で選出するに先立って、候補者の方のお話をお聞きするという重要なイベントです。
2. 今年は村瀬謙一さん（48期・以下「村瀬さん」といいます。）が候補者に立候補されましたので、村瀬さんから、自己紹介から始まり、昨今の弁護士会を取り巻く問題や今後の抱負など、様々なお話を頂きました。

3. 村瀬さんの日常は、2年前から土曜日曜日祝日にはジョギングをして健康管理をされたり、家庭を大事にすることがモットーであるなど、村瀬さんの人柄がよく表れた自己紹介でした。特に、コロケ、お好み焼き、ミートソーススパゲティはご家族に評判がいいようで、コロケについては男爵とメイクィーンを2：1でブレンドして作る、お好み焼きは両面に豚バラ肉を置いて焼く、ミートソースは1時間半かけてしっかり煮込むというように、お料理の具体的な内容にまで及びました。

4. 村瀬さんは、山口健一法律事務所でも6年間在籍され大型事件や弁護団事件でご経験を積まれた後、郊外となる池田市で独立開業されました。

池田市で多数の委員に選任され、民間委託など弁護士業務への参考になったというお話や、池田市職員600人のうち3分の1と顔見知りになることができ、聞きたいこと、頼みたいことがあると、市の職員さんからいろいろなレクチャーを受けることができるなど、仕事の面でも役に立つことが多いそうです。



5. かつては、労働関係の弁護団、過労死事件などで活躍され、後に労災の認定基準の改訂のきっかけとなった事件も経験され、弁護団事件は事務所だけでは経験できない様々なスキルアップにつながったとのことですが、現在、事務所が郊外にあることもあって、弁護団事件等を通じて若手に還元できていないので、若手の方には別の形で還元したいという抱負も語られていました。

2020 年度 広報委員の紹介

委員長 中森俊久 (55 期)
 有村とく子 (50 期 昨年度委員長)
 山口昌之 (58 期 担当副幹事長)
 浦寛幸 (59 期 HP・新人歓迎会担当)
 広瀬元太郎 (60 期 WEB化担当)
 木場晶子 (67 期)
 加藤卓 (68 期 写真担当)
 鮫島千遙 (68 期)
 吉留慧 (68 期)
 信吉将伍 (69 期)
 高一成 (69 期)
 根本俊太郎 (70 期)
 佐久間ひろみ (71 期)
 足立敦史 (71 期)
 中西教子 (72 期)
 才木晴幹 (72 期)

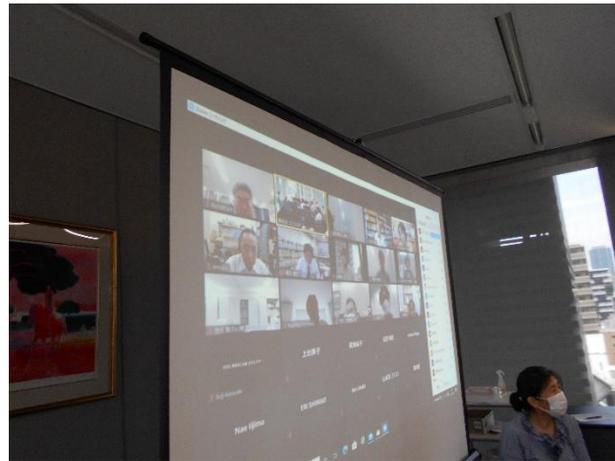
6. 弁護士会の活動については、市民窓口が一番深い関わりとのことで、一般市民



が弁護士の苦情を述べることができる市民窓口は弁護士自治を確保する重要な制度であること、弁護士会が迅速に問題を察知したり、弁護士としても一歩前のところで止まるよい契機になる、そして相談員も、一般の方が弁護士に対してどのような苦情があるのかを知る良い機会になったり、相談員は2名1組で行いますので、相相談員を通じて、自分以外の弁護士の説得方法、説明方法を学ぶ、スキルを磨くよい機会にもなるというお話を頂きました。

7. 市民窓口については、市民窓口情報をうまく利用できないか、担当副会長は1年間の任期があり前半は引き継ぎがあるので、対象弁護士に副会長からあまり指導できていないのではないかと、副会長の任期が1年で終わるが、もっと継続性がある体制の方がよいのではないかと1年に3名から苦情があれば大正弁護士に苦情が入ったことを知らせる制度があるが、60%くらい再度の苦情がないとのことで、例えば3件ではなく、もっと拡充してもよいのではないかとと思うといったご意見もいただきました。

8. 質疑応答の時間では、複数の会員より、激励の言葉や質問などがありましたが、一番印象的だったのは、



村瀬さんが、郊外型の需要について、例えば、郊外の依頼者が大阪市内に片道1時間の移動時間がかかる場合、自営業者だと往復2時間、相談時間をいれると3から4時間、事業所をあげないといけないのは大変であったり、高齢者の方にとっては移動そのものが大変だったり、子どもさんがいらっしゃる方も家を長時間あけることができないなど、弁護士事務所が遠いと相談そのものが大変であったり、

り、地元の議員さん、地元の税理さんが紹介して、依頼者と付き添うのも大変であるというお話でした。

9. 今後、裁判や打ち合わせ、各種申請などのIT化が進むなどとして、仕事の効率化が大幅に変化すれば、郊外型の事務所はさらに増えるのではないかと、それに合わせて、弁護士会もいろいろと改善しなければいけないところが出てくるのではないかと考えさせられました。

10. 最後に村瀬さんから、ここまで来ることができたのは、最初に所属された事務所の山口健一先生だけではなく、春秋会の皆様のご支援ご指導があったからで



あること、弁護士同士の信頼も危うくなっている昨今、弁護士の信頼が回復できるように尽力されることを宣言され、非常に温和な村瀬さんらしい意見を聞く会となりました。

村瀬さん、来年度の副会長のお仕事は大変かと思いますが、ぜひがんばってください！

以上